

心を鍛えよ 体を鍛えよ 頭を鍛えよ

校訓
自然に学ぶ

【自己肯定感と自己有用感の向上 ← すべての生徒に居場所と出番と活躍の場を】

めざす生徒像

命を尊び人権を大切にする生徒
まじめにこつこつ粘り強く努力できる生徒
主体的に学び自分で課題を見つけられる生徒
自ら考え自ら判断し自ら決定し行動できる生徒
仲間とともに学校生活を高められる生徒
地域や社会に貢献できる生徒

めざす学校像

明るい挨拶や会話がとびかう活気ある学校
自分らしさが発揮でき、温かい雰囲気の学校
理性と気品が漂い、目に耳に心に美しい学校
互いに切磋琢磨し、高め合う学校
地域に愛され地域に貢献する学校

今年度の具体的方策と重点目標

頭を鍛える

<ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの積極的かつ有効な活用 ・振り返りとまとめから主体性を伸ばす ・「学びを支える学級集団作り」の校内研 ② 読書活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの推進 ・教科における積極的図書館利用 ③ DAITOアクティビティ（本物体験）とコミュニティ・スクールの推進 ④ 家庭学習の充実と低学力の克服 ・不登校等困難な環境にある生徒の学びへのアクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科でつきたい資質・能力 ・読書率の向上 ・5教科100点以下の減少 ・全員学びへのアクセス
---	---

体を鍛える

<ol style="list-style-type: none"> ① 軸となる保健体育の授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力・防衛体力の向上 ・生涯を通じてスポーツに親しむ素養づくり ② 生徒の主体的な部活動の運営と地域移行への試行 ③ 家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 ④ 危険予測・回避能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・福島修学旅行の学びを全校で共有・深化 	<p>【頭と体と心の取組を総合的に推進して】</p> <p>R5年度の「総欠席日数」と「月7日以上欠席者数」より減少させる</p>
---	---

心を鍛える

<ol style="list-style-type: none"> ① いじめ問題への取組強化と自治的な学級・学年集団づくり（意見表明と言語化） <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめマスターズ宣言」の改訂とその行動化 ・人権学習、挨拶運動等で心を耕す ② 多様な価値観にふれる道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> ・22の内容項目 ③ ボランティア活動と地域貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチ製作と避難所設営体験 	<p>日常生活の中でこそ「心を鍛える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と自己評価によるPDCAサイクルの確立 ・当たり前のことを特別熱心に取り組む ・「時を守り、場を清め、礼を正す」 	<p>非認知能力（社会情緒的スキル）を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長期的目標の達成」 ・「他者との協働」 ・「感情を管理する能力」
--	---	---

その他の視点

- ① 不登校生徒のアセスメントに基づく組織的対応
- ② SOSの出し方に関する教育の推進（真の自立は適度な依存から）
- ③ 丁寧で組織的な保護者対応
- ④ 危機管理の「さしすせそ」（最悪を想定し、慎重に、速やかに、誠意をもって、組織的に）
- ⑤ いじめ等の事案対応は「事実の確認」「経過の確認」「その後の確認」まで
- ⑥ インターネットやゲーム等から生徒自身を守る取組
- ⑦ 合理的配慮を含む特別支援教育の推進

「誠意」と「情熱」と「けじめ」をもって生徒や保護者に接する教職員
学び続ける教職員、教えるプロから学びのプロへ変革する教職員
人を敬い、人から尊敬される「人間力」あふれる教職員
綱紀粛正を徹底し、公に尽くす教師

めざす教職員像

【学校運営のキーワード】
・PDCAサイクルとOODAループで実践を積み上げる
・ねらいと目的に commitment し、手段と方法を考える

「子ども読書の日」に寄せて

4月23日は子ども読書の日でした。その日に東京で子どもの読書活動推進フォーラムがあり出席してきました。大東中学校は昨年度の図書館教育の実践が高く評価され、読書活動優秀実践校として、文部科学大臣賞をいただきました。うれしさとともに、受け継いだ責任の重さも感じています。

自分自身の教職の最終章を迎えた中、読書好きな生徒を一人でも多く育てたいと思います。強制することなく、読書のすばらしさを伝え、自ら本を手にする生徒を育てたいものです。フォーラムでは、そのヒントをいくつかいただきました。

私の年齢では60歳で役職定年となり、定年が延長されます。数年前から60歳後の人生設計を悩んでいました。60歳で役職定年したときには、13年授業から離れることとなり、再び授業することは全く自信がありません。また、あと4年の教職を全力投球して燃え尽きて、スパッと教職を離れようとも思っていました。そんな折、突然人生プランが降りてきました。2021年の本屋大賞2位になった青山美智子「お探し物は図書室まで」を読んで、突然「退職後、図書館司書になろう」とスイッチが入りました。年齢の数だけ1年間に本を読もうとずっとやってきて、この4年間は年間100冊以上の本を読んでいます。読書をすればするほど、様々な知識が繋がったり、生き方のヒントをもらったりしています。読書によって人生が豊かになり、よりよく変化していると言っても過言ではありません。「お探し物は図書室まで」に、小町さゆりという図書館司書が出てきます。一見そっけない人ですが、「あなたにはこの本とこの本とこの本」と、全く相手に関係なさそうな本を紹介します。そして、それを借りて読んだ人の人生が変わっていきます。本を貸すときに、付録の羊毛フェルトが付いてきます。本と羊毛フェルトをもらった人の人生が変わっていく。読みながら、「そーやね、本は人生を変えるよな」と共感し、司書の仕事に魅力を感じたわけです。

実は私は大東中学校の校長でありながら、今年度から近畿大学の通信教育で図書館司書の資格取得に挑戦しています。近畿大学に入学しました。11の教科書を読んで2000字のレポートを提出し、その後試験を受けます。これにプラスして、メディア授業を2教科受けなければいけません。45分のメディア授業を15コマ受講し、毎回テストがあり、満点取らないと次に進めないそうです。15コマクリアの最後にテストがありそれもクリアしなければいけません。これを一年間で挑戦すると今年の2月に決めました。まだ、レポートを6つ提出して、半分が合格しただけで1合目にも至っていない感じです。通信教育に挑戦しながら、今年は読んだ本を人に紹介するポップの文章も作っています。36たまりました。生徒たちにいい本を紹介したいと思います。

「お探し物は図書室まで」の小町さゆりのように、その子の人生を変えるような本を紹介できるようになりたいと思います。

(2023. 4. 24)

読書の秋に

先々週に滋賀県学校図書館研究大会が本校で開催され、読書について考えることが増えました。時々、この通信でも読書の素晴らしさと重要性について書いてきましたが、今回もそのことを伝えたいと思います。閉会式で、「一冊の本が人生を変えることもある」と言いました。教職に就いたときに、尊敬する先生から「教員の仕事は勉強だ。教えることではない。自分自身が学び続けることだ。とにかく本を読め。何でもいいから月に1万円は本につき込め」と助言されました。私は、数年間まずは毎月1万円分の教育や部活指導に役立つ本を買うところからスタートし、その本を並べておいて、時間を作り読んだものでした。教育雑誌も今よりたくさん出されている時代で、毎月4～5冊読んでいました。月1万円ペースで教育書を読み、日々実践していく中、学校は荒れていましたが、今から思えば理論と実践が往還できた時期となりました。ただ、野球部の指導は強いチームを作っても勝ち切ることができませんでした。そんな中、読書の転機は教員生活6年目にやってきました。

現在、長浜市教育委員会教育長をされている織田恭淳氏から「河地は野球のことばかり勉強しているから勝てないのだ。野球以外の勉強をしろ」と、広岡達朗（プロ野球監督）の「勝者の方程式」と米長邦男（棋士）の「運を育てる」と立花隆（ジャーナリスト）の「宇宙からの帰還」の3冊をいただきました。棋士の本も宇宙の本も読むのは初めてでしたが、30代では意識的に「教育書は読まない、異分野の方から学ぼう」と読書の姿勢が変わり、読書の幅が広がりました。雑誌「致知」を定期購読し始めたのも30代でした。これが分岐点になりました。

私は本と出会い、その作家が気に入ると、その作家の作品を全部読みたくなります。そして、その人の人生のテーマを考えます。これまで作品のすべてを読んだのは、将棋では米長邦男、羽生善治、囲碁では藤沢秀幸、野球では野村克也、遺伝子学者の村上和雄、宗教学者の山折一雄、数学家の藤原正彦、教育では東井義雄、森信三、藤原正博です。小説では山崎豊子、東野圭吾、池井戸潤、百田直樹、島本理央は全部読みました。司馬遼太郎は、「街道が行く」シリーズをあと数冊残すだけとなりました。また、青山美智子も近年マイリストに入りお気に入り作家となりました。校長通信第1号で「縁尋機妙・多逢聖因」という言葉を紹介しました。人と人との縁は実に不思議なもので、よい縁がさらにより縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なものという意味ですが、人と人との出会いだけでなく、本との出会いが、次の本との出会いにつながったり、本が新たな人と出会わせてくれたりする経験もしてきました。

ちなみに20代の時期に一番読んだ教育書は坂本光男の集団作りシリーズでした。今の時代でも通用する実践であり、今の若い先生に・・・と感じるあたり私も年も取りました。どうぞ気が向くままに良書にふれる秋にしてください。（2023.10.23）

人生をかえる一冊と出会える秋

今日は全校ビブリオバトルです。人と本をつなぐ、そんな時間になることを楽しみにしています。学級担任の先生が、自分のおすすめ本を生徒に紹介していました。

「もし私なら」と考えて2冊紹介します。

将棋の世界では先日、藤井聡太が史上初の8冠を独占し大きな話題となりました。2002年生まれなので21歳という若さです。少し前の時代（1996年）では、羽生善治が当時の全タイトルの7冠を独占した時代もありましたが、そのとき羽生善治は25歳。将棋の世界では、過去の棋譜を覚えているという記憶力が勝負を分けることもあり、若いときに力をつけて一気にトップにのし上がることがほとんどです。そして30代、40代では少しずつ勝てなくなります。そんな将棋界で米長邦雄（1943～2012、元日本将棋連盟会長、元東京都教育委員）は、「名人」というタイトルに若いときから7度挑戦し逃しましたが、49歳11か月で初めて名人となり、50代で在位した最初で最後の名人でした。そのあとに出されたのが「運を育てる（祥伝社）」でした。私はこの本を読んだときに、単に運を育てるとか、ツキを呼び込むというレベルでなく、生き方そのもの、普段の心がけ、工夫した勉強法が大切だと思いました。米長の言葉を借りると、「勝利の女神には判断基準がある」、「惜福・分福・植福の心がけ」、「知識や記憶は捨ててこそ役に立つ」、「人生の極意は運・鈍・根」、「地の気を味方にする」等があり、歴史や文化を背景にした多くの考えに共感をしました。将棋以外の勉強をたくさんされているその人間性に引かれ、当時この本に出てくる関連本をすべて読みました。この経験を通じて、様々な考えや価値観を読書によって広げることとなった一冊でした。

2冊目は青山美智子の「お探し物は図書室まで（ポプラ社）」です。青山美智子は3年連続本屋大賞にノミネートされ、とても読みやすい作品が多いです。全作品ほっこりします。「お探し物は図書室まで」は短編5話です。人生や仕事に疲れた様々な人が図書館を訪れます。21歳の婦人服販売員、35歳の家具メーカー経理部、40歳の元雑誌編集者、30歳のニート、定年退職した65歳の男性が図書館へ訪れたときに、小町さゆりという図書館司書が対応します。いつもピンポン玉みたいな丸いものに針をザクザク刺して作業をし、少し愛想も悪い感じですが、最初の21歳の女性が「パソコンの使い方が載っている本を」と頼みますが、そこで司書の小町はその女性から様々な話を聞きます。その結果、「ぐりとぐら」という絵本を渡す。そして本と一緒に、付録としてお手製の羊毛フェルトを渡します。こんな風に自分には関係ない本を紹介され不思議な感覚で図書館を後にする人の人生が変わっていくのです。子どもにとって最適な助言ができているのだろうかを考える一冊となりました。そして、将来図書館で働きたいとスイッチが入りました。（2023.10.23）

心を鍛えよ 体を鍛えよ 頭を鍛えよ



みしま

大東中学校 学校だより

No. 9

2024年11月1日

校長 河地 誠

本との出会いで人生が変わる

良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである。(テカルト)

一冊の本に人生を丸ごと変えてしまう力がある(マルコムX)

心にとっての読書は、身体にとっての運動と同じである(リチャード・スティール)

良い本は私の人生におけるイベントである(スタンダール)

旅行に行く余裕がなくても、本を読めば心の中で旅することができる。本の世界では、何でも見たいものをみて、どこでも行きたいところに行ける。(マイケル・ジャクソン)



数学家でベストセラー作家の藤原正彦さんは「一に国語、二に国語、三、四がなくて五に算数・・・」と数学を極めるためにも国語の重要性を話されます。そして、読書に力を入れ、すべての教科や分野の土台となる読解力を養うことが小学校・中学校時代の最も大切な学習と断言されます。

また、人との出会いで人生が変わるように、良書との出会いでも人生が変わることを、多くの先人は教えてくれます。一冊の本との出会いから、新たな興味が生まれ、チャレンジにつながったりすることも多いです。私は3年前に『お探し物は図書室まで(青山美智子)』を手に入れました。たまたま、本屋大賞に3年連続でノミネートされていた青山美智子という作家に興味をわき軽い気持ちで読みました。短編5話で中学生にとっても読みやすい作品ですし、本校の図書館にもありますので、是非とも読んでほしいと思います。

この小説は、人生や仕事に疲れた様々な人が図書館を訪れます。21歳の婦人服販売員、35歳の家具メーカー経理部、40歳の元雑誌編集者、30歳のニート、定年退職した65歳の男性が図書館へ訪れたときに、小町さゆりという図書館司書が対応します。いつもピンポン玉みたいな丸いものに針をザクザク刺して作業をし、少し愛想も悪い感じです。最初の21歳の女性が「パソコンの使い方が載っている本を」と頼みますが、そこで司書の小町はその女性から様々な話を聞きます。その結果、「ぐりとぐら」という絵本を渡します。そして本と一緒に、付録としてお手製の羊毛フェルトを渡します。こんな風に自分には関係ない本を紹介され不思議な感覚で図書館を後にする人の人生がその本を読んだ後に変わっていくのです。

これを読んでほっこりした私は、図書館司書の資格をとるために昨年度一年間、通信制の大学に籍をおき、仕事が終わったあとに講義を受け、レポートを提出し、試験に合格し図書館司書の資格を取りました。

まさに、本との出会いで人生が変わりました。生徒の皆さんにも、よい本と出会い、豊かな人生を歩んでほしいです。



おみくじコーナーにも人生のヒントが

活躍の秋 努力の足跡

◇文化祭・合唱コンクール(10月8日)

グランプリ 3年A組 ダイナミック賞 3年C組 グッドハーモニー賞 3年B組、1年A組
 ※3年3クラスは米原市音楽祭(山東部)に参加し、素晴らしい合唱を披露しました。多くの関係者から賞賛の声をいただきました。

有志の発表等もとてもレベルが高かったです 生徒会企画も楽しい演劇でした



◇秋季新人大会(10月18日) ※陸上競技部のみ全県の大会、他はブロック大会

- ・陸上競技部 男子200m 清水勇汰 3位(23秒92)
- ・サッカー部 大東0-4豊日
- ・ソフトテニス部 団体 大東2-1多賀、大東1-2双葉 ベスト4
 個人 吉田絢寧・児玉陽菜ペア 優勝、岩島涼・三原優舞ペア ベスト8
 → 2ペアが県大会(11/3)に出場
- ・男子バスケットボール部 大東89-58湖北 Cゾーン1位
 大東62-85びわ、大東40-87長浜北
- ・女子バスケットボール部 大東41-37湖北・びわ、大東24-48長浜北、
 大東56-20浅井 3位
- ・女子バレーボール部 大東2-0米原、大東2-0双葉 優勝 →県大会(11/4)に出場
- ・卓球部 団体 4位(2勝3敗)、個人戦 高畑琴羽 ベスト16



※前号で各部の部長・副部長を紹介しましたが、芸術・創作部は文化祭に向けて3年生中心の活動だったため未決定でした。この度、平塚凜さんが部長、藤田知佳さんが副部長となり、山東文化祭への出品に向けてがんばっています。



米原市青少年育成大会で作文「ネット以上に大切にしたいこと」を発表する塚口春香さん



滋賀県交歓スポーツ大会卓球の部で3位に輝く田中友菜さん



1年生と保護者と事業所担当者の前で堂々と職場体験学習の報告をする2年生 将来の目標、生き方についてじっくり考えていこう



おめでとう！科学部が第78回滋賀県児童生徒科学研究発表会で最優秀賞を受賞

夏から秋にかけて大きな行事が続きましたが、「さすが3年生」と感じる場面が多かったです。また、進路実現に向けて地道な努力ができている人も多いです。3年生の頑張る姿は下級生にもよい影響を与えます。先日、生徒会役員選挙が行われましたが、立候補者5人とその推薦人の熱い思いには感動と、歴史と伝統を引き継いでくれるという期待感が生まれました。行事後の学校生活でも目標を持って、みんなで頑張っていきましょう。

日々の生徒の頑張りの様子を <https://daito-j-maibara.edumap.jp> にアップ中です。どうぞご覧ください。

大東中図書館 概要

教室1つ分の小さな図書館

・読書支援に力を入れる ・学習資料の整備・活用が課題

- 生徒数 240名(学級数 8)
- 蔵書数 約7800冊
- 朝読書 (毎日10分 全員で読書時間)

- R1 学校司書配置
- R4 図書館システム「情報BOX」導入

- オリエンテーション (4月 新入生対象)
- ビブリオバトル (全校)

Before : 利用が少なく、存在感が薄い



- ✓ 椅子が上がっている
- ✓ 入口に魅力がない



課題

「暗い」
書庫のよう
分類記号・見出し×
展示・飾り×

「汚い」
ホコリ・クモの巣
古い本が目立つ
掲示物の劣化

「活気がない」
来館者が少ない
司書がいない
使う意識がない

After : 居心地よく、来たいと思える場所に



- 生徒と共に
リニューアル実施
- 学習の場として
使える配置に

改善



「明るい」

掃除・除籍
展示コーナー
季節の飾り

「使いやすい」

分類記号・見出し
配架の工夫
図書館システム導入

「人がいる」

貸出数の増加
休み時間の居場所
学校司書(週2日)

取組① 館内展示・イベントの工夫 ようこそ図書館へ！



- いろんな本に出会える
 - 本以外の楽しみがある
 - 安心して過ごせる
- 〈居場所としての図書館〉



取組② 館外での印象づけ 図書館利用につなげる



先生のメッセージつき

- ・「先生のおすすめ本」展示
- ・新聞コーナー / 詩の紹介
- ・新着本の紹介(本の帯)
- ・企画展示



取組③ ビブリオバトル(書評合戦) 学級で・全校で・自由参加で!



- ・読書意欲の向上
- ・読書の幅を広げる
- ・本を通して自己表現

生徒にとって「楽しい活動」
であることを大切に!



今後の展望

どのような図書館にしたいか（コンセプト）

- ① 生徒が来たい！と思う図書館
- ② 安心・安全な情報を提供する図書館
- ③ 様々な活動に使える図書館

読書センター

学習センター

情報センター

 現在地

安心・安全な情報を提供する

調べ学習は、インターネットが主流？ 図書館の本が使われない

- 「図書館を使うメリット」を伝える 情報の信頼性、発達年齢に適した本、司書のサポート

インターネットは 「情報の大海原」「情報の洪水」

学校図書館は 「安心して水慣れできる遊泳場」のような場所
琵琶湖ならば、湖水浴場

- 学校図書館の本は、専門家・司書・教員が選んだ本が中心、比較的安心して使える
- インターネット・図書館の本、どちらも活用できるようにする
- 授業で使われる見込みのあるものを優先的に整備する（ニーズの把握）
- 生徒を将来の公共図書館利用につなげる（生涯学習・リスキリング）

様々な活動に使える（場としての活用）

- **全ての生徒を図書館につなぐ** 先生方の協力が不可欠
 - ・授業の場として活用できるようにする 利用計画を立てる
 - ・読書・学習以外の活動にも使い、来館のきっかけを作ってもらおう
（例）懇談、部活ミーティング、生徒会活動、英検対策・・・

「色」について調べたい！
（生徒会メンバー）



- **「居場所」としての役割**
 - ・教室、保健室のように、生徒が安心・安全に過ごせる場所の一つになるように

いつでも利用できるよう、人が居て、迎えてあげられるのが理想

課題 学校司書の出勤 週2日（昼の貸出～放課後利用に対応 滞在 3～4時間）

先生方は授業・学級担任・部活指導と多忙、相談時間を持つことが難しい。
図書館活用推進に伴い、勤務時間数の見直しも必要になるのではと考えます。